

ふれあい看護体験 7月29日 ……地元のみなさんとともに

今年も2名の高校生がやってきました。

ナース姿も初々しく、緊張気味の2人。まずは院長、看護部長の挨拶の後、指導担当のナースから説明を受け、いよいよ体験です。患者さんの病室で、身体の清拭や足浴を真剣にやさしく補助する2人の緊張感が伝わります。聴診器を耳に血圧測定体験や実際に食事介助をするなど、がんばりました。最後に理事長から「技術や知識は学べますが、『心』を鍛えるのは簡単ではありません。人の人生は大変重いものですから、一人の方を大切に思う気持ちを持ち続けてください。当院でも基本方針に『優しい心を基本とする』



とあり、いつも心に留めて看護しています。ベテランになっても「心」を大切に、今の気持ちを忘れないようにしてください。」との話がありました。

2人からは、「患者さんと話をしたのが印象深く楽しかった。理事長からもお話が聞け、この体験は本当に有意義でした。ますます看護師になりたい気持ちが強くなりました!」と、はにかんだ笑顔が輝いていました。ぜひ、すてきな理想の看護師をめざしてください。

勝山さん：患者さんも「ここは、いい病院だ。各別や」と言っておられ、家のような感覚の病院に感動しました。将来は、どの患者さんにも話しかけられるような看護師になりたいです。



泉さん：千春会の看護師さんは、患者さんを第一に考えておられ、笑顔でやさしく接しながらも、テキパキしていてびっくりしました。私もいつも笑顔で、患者さんに元気になってもらえるような看護師を目指します。



菊地理事長から話を聞く二人

2 歳時記 「命」をつなぐ連携医療 救急救命士研修 6月22日～7月3日

乙訓消防本部から、今春5月に救急救命士の資格を取得された小林さんが「就業前病院研修」に来院され、こんな感想をいただきました。



藤原院長から指導を受ける小林救命士

小林智郎さん
失敗も含め、数多くの貴重な経験をさせていただき自信につながりました。一番印象に残ったのは、千春会全体の各科での「つながり」で、スタッフ間のコミュニケーションが充実していることでした。このことは、医療事故を起こさないためにも、地域住民に信頼していただくためにも非常に大切なことだと思います。私も所属に戻れば必ず実践したいと思いました。

優勝を狙え!

チームワーク抜群の千春会バレーボール部

千春会では勤務を終えてから、近くのコートで楽しくバレーボールの練習をしています。鬼(?)コーチは、筒井ドクター。看護師を中心としたメンバーで、一昨年、京都私立病院協会主催「病院対抗女子バレーボール大会」に参加し、初参加で第3位という快挙だったバレーボール部。「千春会といえば、チームワーク!」理事長の檄を受け、気持ちを一つに、絶対、優勝を狙います!

部員募集中です!
楽しく爽やかな汗を流しませんか?



ニュース

「千春会病院前」バス停ができました!



「千春会病院前」バス停

長岡京市のコミュニティバスとして親しまれている「はっぴいバス」。千春会病院の正面玄関前が停留所なので、ここでバスを降りればすぐ目の前です。ぜひ、ご利用ください。時刻表も受付に設置していますので、ご希望の方はお気軽にお申し出ください。



バス外観も一新した「はっぴいバス」病院玄関前に横づけです

編集後記

今号表紙は、初秋の名刹「栗生の光明寺」。晩秋には、紅葉の見事な「朱」に包まれる「もみじ参道」は、まだ、青く静寂です。千春会も、新規事業運営の「来るべき時」に向け、粛々と準備を進めております。地域に貢献すべく、万全の体制を整えながら、着実に歩む千春会。理念と共に、心に秘めるは、燃えるような紅葉にも似た「熱い思い」です。(弘)

患者さまの権利と義務

当院では、次に掲げる患者さまの権利を尊重します。

- 1 患者さまは誰でも、良質な医療と良質な看護を公平に受ける権利があります。
- 2 患者さまは、医療の内容について納得できるまで十分な説明を受ける権利があります(インフォームドコンセント)。
- 3 患者さまは、他の医療機関の医療者に意見を求める権利があります(セカンドオピニオン)。
- 4 患者さまは、医師から説明を受けた治療方法など自らの意思で自由に選択し決定する権利があります。
- 5 患者さまは、ご自分の診療録など診療情報の開示を求める権利があります。
- 6 患者さまは、個人の情報やプライバシーの保護を受ける権利があります。

また良質な医療と看護を公平に受けていただくために、患者さまに次の義務をお願いしております。

- 1 患者さまご自身の健康に関する情報を、できるだけ正確にご提供ください。
- 2 十分理解できるまで質問いただき、納得した上で治療をお受けください。
- 3 患者さまおよびご家族の方々は、他の患者さまの治療や職員による医療提供の支障にならないように協力する義務があります。



日本医療機能評価機構認定病院
千春会病院
〒617-0826 京都府長岡京市開田2丁目14-26
TEL (075)954-2175 FAX (075)955-4615

せんしゆん



ISO9001:2000認証取得
日本医療機能評価 (Ver.5) 認定病院

<http://www.senshukai.or.jp/>

千春会

検索

発行責任者：菊地 孝三



紅葉を待つ 初秋の「光明寺」総門

理念 (3つの使命)

- 1 患者・利用者の自立を支援し、良質な医療・看護・介護を提供する。
- 2 仕事に誇りと責任を持ち、社会人としての向上を目指す。
- 3 事業の充実により、住民の健康増進と地域社会の発展に寄与する。

医療法人社団 千春会

良質な医療・看護・介護の提供を目指す

看護部紹介 やさしい笑顔があふれる看護部

ご挨拶

私たち看護部職員は、法人理念に則った、看護部理念を胸に、患者さまの立場に立ち、安全で質の高い看護を提供できるよう常に心がけております。そのために教育にも力を注ぎ、勉強会や研修会の企画や参加、学会発表などにも取り組んでおります。また、新人看護師はもとより、第一線から一度は退き家庭におられる、いわゆる潜在看護師との出会いも大切にし、先輩看護師がやさしく思いやりを持って、日々の関わりの中で指導に携わる「プリセプター制度」も導入しております。千春会の目指す、地域の「かかりつけ病院」としての機能を果たすべく、理事長・院長をはじめとする医局の先生方、医療スタッフ、そして介護スタッフと手を携えて「チーム医療」の中で看護部としての力を発揮し、働きがいのある病院づくりを目指しております。

細やかに
生き活きと！



山内看護部長

看護部理念

私たちは、常に患者さまの立場に立ち安全で質の高い看護を提供します。
 私たちは、法人の一員としての自分自身の仕事に誇りと責任を持ち、能力の開発に努めます。
 私たちは、地域との連携を密にし、看護活動を通して社会に貢献します。
 私たちは、患者さまの人権を尊重し、生命倫理を尊重します。

■ 手厚い看護体制

千春会病院の看護体制は、現在の最高基準である「看護体制7対1」（患者さん7名に看護師1名の配置）を取得しております。全国的な看護師不足の中、千春会が目指す「良質な看護」を実践すべく、看護部をはじめ関連部署が一丸となって努力した結果、比較的離職者の少ない職場となっています。これからも、厳しい基準をクリアして、手厚い看護体制の維持に努めてまいります。



■ 手厚い教育システム

新入職や長年現場を離れていた看護師に対しては、先輩看護師が丁寧に指導する「プリセプター制度（お姉さんナース）」で技術や知識の向上を図り、安全で確実な看護を提供するよう教育研修を進めています。

日々、真摯に良質な看護に取り組みながらも、和やかな雰囲気を併せ持つのが千春会の看護部です。構成は、その6～7割が家庭を持つ看護師ですが、スタッフ間のコミュニケーションもスムーズで、チームワーク良く、働きがいのある職場を目指しています。



■ 手厚い研修・発表支援システム

教育・研修については、全ての職員が関わり、法人全体で真剣な取り組みがなされています。看護師も参加しやすい時間に配慮された「院内勉強会」などでスキルアップを図るとともに、看護部が主催する「看護研究会」を年、数回行うなど積極的に研究発表にも取り組んでいます。



「学会発表」も法人全体で支援しており「平成21年京都病院学会」において千春会が発表した14演題中、看護部は3演題を発表しました。各部署が十分に力を発揮できるよう、医局の先生方をはじめ、様々な部門のサポートを受け、演題の設定や構成に至るまで、院内で綿密な検討がなされました。何度も模擬発表が行われるなど万全のバックアップ体制で臨んでいます。また、院外への出張研修なども推奨しており、法人で支援しています。



でいます。また、院外への出張研修なども推奨しており、法人で支援しています。



法人理念を掲げ、「志」高く邁進する千春会。「良質な医療・看護・介護の提供」を目指し、看護部は、全職員と連携を密にし、法人全体で「チーム医療」に取り組んでいます。これからも、やさしい心と笑顔を忘れずに、安全で質の高い、患者さま第一の看護を提供してまいります。

千春会バレーボールチーム（今月号5頁参照）
 ……勤務後のリフレッシュに爽やかな汗を流しています。

■ チーム医療の実践

様々な情報を共有し、各部署の考え方や意見を交えることで、スタッフ全体の向上を図り、連携のとれた「チーム医療」を実践しています。その中でも看護部は「多職種カンファレンス」「褥瘡対策チーム」「栄養サポートチーム(NST)」など、多職種チームの主要メンバーとしても役割を担っており、安全で確かな看護の提供に努めています。



多職種カンファレンス

■ 院内のさまざまな部署が関わり、患者さまの症例を検討し、治療方法などをチームで考察していく「多職種カンファレンス」では職域を超えた意見交換などで、知識を深め、見直すことでスキルの向上につなげています。

■ 褥瘡(床ずれ)の予防と完治のための「褥瘡対策チーム」(医師・看護師・管理栄養士・理学療法士など)では、院内発生ゼロを目指して回診や勉強会などを行っています。看護部では院内のみならず、訪問看護にもそのスキルを活かしています。

■ 「栄養サポートチーム(NST)」(医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、言語聴覚士、歯科衛生士など)では、症例を検討し、回診を行います。患者さまの日常に一番関わりの多い看護部では、食事介助や栄養管理にも細かな配慮をしています。



ふれあい看護体験（今月号5頁参照）
 ……看護師志望の高校生などの体験実習を毎年受け入れています。

今月のインタビュー

今回は、千春会顧問の海法裕男先生をインタビュー。
厚生省（現・厚労省）の指導医療官として在職中、筋の通った厳しい指導と評され、平成13年には厚生労働大臣表彰を授与された先生。本日は、終始和むような笑顔で語っていただきました。

「先生、ご挨拶をお願いします。よろしくお願いします。本日は、終始和むような笑顔で語っていただきました。」



千春会顧問に就任されて数カ月がたちましたが
（先生） 12年程前に厚生省の指導医療官として、千春会病院へ指導に入ったのが、就任間もない菊地理事長との出会いでした。清廉潔白な経営を実践する理事長と監督官庁側の私。立場は違いますが、目指すところは患者さんのため、より充実した医療にありますから、何度も激論を交わしながらもお互いを認め合うのに時間はかかりませんでしたね（笑）。
現在の千春会は、医療費抑制など医療業界が厳しい時期にありながら、理事長自らが理念の実践を目指し、日々一生懸命に努力されている。これに続いてドクターやスタッフが丸となりがんばっている。ささやかな事を前向きに積み重ねておられるのが、本当にすごいですね。理事長のそんな真摯な姿勢に、何か



プロフィール

昭和41年 東北大学医学部 卒業
昭和53年~ 京都府立医科大学泌尿器科 渡邊俊教授に招聘され京都へ。
現・社会保険京都病院泌尿器科で卒業後実地教育、京都府立医科大学で透析の講義を担当
平成2年~ 厚生省京都社会保険事務局 保険課指導医療官。
同時に京都府社会保険診療報酬支払基金・国民健康保険団体連合会の審査を担当
平成13年 定年退官
平成13年 愛知県社会保険診療報酬支払基金全日専任審査員
平成20年 千春会病院顧問就任

「超音波機器の開発にも関わられたとのことですが」
超音波機器の開発にも関わられたとのことですが

感することがあって、この法人に来たのだと思います。
「透析治療」導入の初期に関わられたと伺いましたが
（先生） 東北大学医学部を卒業。泌尿器科を専攻し、専門は前立腺でした。「尿毒症」の治療法がなかった昭和42年後半、東北大学泌尿器科で血液透析治療をすることになりました。当時は医師8名程が総がかりで、若手の私などは「水を汲め」「お湯を加えよ」「原液を追加せよ」と、濃度と温度の維持に走り回っていました。その後普及しましたが、昭和45年頃でも、今なら3〜4時間の治療時間が8時間を要し、1カ月の治療費は今に概算すると40万円余でしたから本当に大変でした。



「先生、これからの医師は、患者さんとの対話を通して、医師としての知識や経験から、患者さんの言いたいことを察し、本人が気付かないことなどを汲み取って、医療を行っていくか、ねばなりません。医師が治すのではなく、手術も投薬も検査もすべて患者さんが一人で治していくための手伝いです。そのためにも、患者さんに病気を理解してもらおうことが大切です。患者さんより、多くの医療知識と経験をふまえた医師が、人間の自然治癒力を高めるお手伝いをするのが医師の仕事だと考えます。」



（先生） 肛門から入れて直腸から前立腺を画像化する振動子の開発に携わりました。超音波で心臓の弁膜の動きを画像化するという研究をされていた内科の田中元直教授にご指導いただいたのが幸運でした。失敗作だった食道用の超音波振動子を前立腺の計測に使用するため、さまざまな工夫・改良を重ねて、前立腺の大きさが計れ、誤差も少ない機器を開発。前立腺ガン・前立腺炎などの区別もできるようになりました。
多くの後進指導にも、ご尽力されました。

聞くとところによると、透析導入当時の患者さんが今もお元気で会いにこられるとか。患者さんの話では「仕事を辞めて治療に専念します。」と言ったところ「治療は一生かかるんだ！何があっても勤めろ！」と怒鳴られたとか…。「彼は『先生に怒鳴られ、がんばりました。お陰さまで無事定年退職できました。』と言うのですが、私としては、本当に怒鳴った覚えはないんですよ。（笑）」と海法先生。
穏やかな口調と笑顔の先生からは想像もできませんが、まっすぐ筋の通ったお人柄を垣間見るに、医師として審査官として、多くの武勇伝をお持ちのようです。

ここに響く介護があります 介護部門からのお知らせ

千春会では、介護の必要な方に適したさまざまな介護サービスを提供しております。お気軽にご相談ください。

ホームヘルプ事業部 フリーダイヤル 0120-21-8599

居宅介護支援事業所	デイケアセンター
居宅介護支援事業所上植野	デイサービスセンター友岡
訪問介護センター開田	デイサービスセンター滝ノ町
訪問介護センター上植野	デイサービスセンター上植野
訪問介護センターみなせ	デイサービスセンター風車
	ショートステイ上植野

盛り上がった「夏祭り」

利用者さん、ご家族さんと一緒に楽しんでいただく「夏祭り」を開催しました。
「来てよかった！」「本当に楽しかった！」皆さんからの喜びの声に、早くから万全の準備を進めてきたスタッフの苦労も報われた一日でした。

デイサービスセンター上植野

ショートステイ上植野

7月26日

100名を超える参加者に来ていただき、大盛況。スタッフ総出で準備した屋台のごちそうは、焼きそば、から揚げ、おでん、お好み焼き、カレーなど。みなさん「おいしい！」と、あっという間に完売です。ボランティアさんによるフラダンスでは、利用者さんとスタッフの飛び入り参加まで。ご家族さんと一緒に楽しめる「金魚すくい」「花火」もあり、童心に返ったような笑顔があちらこちらにあふれました。



デイサービスセンター友岡

8月6日

手作りの赤い提灯が見事！「乾杯！」の元気な声で始まりました。ボリュームたっぷりの手作り料理はデザート付。次々おかわりが出て大好評です。ボランティアさんのフラダンスや職員出し物の「鳴子踊り」、大爆笑の「おもしろ着替え」を楽しんだ後は、抽選会で大にぎわい。帰りには手作りの特製絵馬が記念に手渡され、食べて笑った夏祭りは「楽しかった」と、にこやかな笑顔でいっぱいでした。



デイサービスセンター滝ノ町

毎月2回
楽しく練習中！

毎月2回、利用者の皆さんが「ハンドベル」「ウッドブロック」の練習に励んでおられます。滝ノ町スタッフと一緒に楽しく練習に励み、最近では演奏も熟練してこれたとか。おそろいのパンダをつけて、笑顔があふれる練習風景に、今後のお披露目が待たれます。



7月24日

ハーモニカで大合唱

ハーモニカ奏者が、風車にボランティアで来ていただきました。かわいい音色のハーモニカ演奏にあわせて、懐かしい歌を大合唱。スタッフからも「さすが」の声が出るくらい、大きな声でしっかりと、みなさん本当にお上手でした。



デイサービスセンター風車